

活動テーマ

「緑を育て 川を守り

地球にやさしくしよう。」

実践事例について

里山での全校活動「猪子山活動」や地域の川「山路川」の水環境学習を中心にして、琵琶湖を大切にする環境教育を進めている。「見つけて」「考えて」学習したことを生かし、地域や家庭と「連携する」日常実践的なエコスクール活動を展開している。

1. 学校環境

大正2年に創立された本校は、琵琶湖の東、東近江市の能登川地区中心部にある。JR能登川駅から近く、京都・大阪への交通の便もよいので、学区には商店街や住宅地が広がっている。児童数655名の大規模校である。

学校から徒歩5分程度のところに地域の里山である猪子山がある。古墳や遺跡なども近くにあり、歴史学習の素材にも恵まれている。

また、湧水が豊富な比較的美しい川が近くを流れている。

2. 実践事例

(1) 豊かな実践活動の出発点、身近な里山「猪子山活動」

本校では、近くの里山「猪子山」をフィールドに、年2回、全校での環境学習「猪子山活動」を実施している。春は「猪子山で遊ぼう」をテーマに縦割りグループを生かし、子どもたちが活動内容を考え、自然を生かしたクラフトやネイチャーゲームなどを行っている。秋は「猪子山で学ぼう」のテーマのもと、学年ごとに学習活動を考え実践している。昆虫などの生き物や木や草花などの植物の調査、古墳や遺跡の歴史学習など、猪子山というフィールドを生かした学習活動を展開してきた。サワガニ、キクラゲ、クヌギ、オオバヤシャブシなどの生き物とふれ

あい、親しむことができるとともに、エコスクール支援委員会や能登川博物館などの支援を得て、専門的なアドバイスをいただい



ている。四季折々の美しさを見せる猪子山に関わり、郷土の自然の豊かさを体感することをねらいとして活動している。

(2) 美しい川を守る「山路川調査」

琵琶湖に面し湧水が豊富な能登川地区では、特に水環境について関心が高い。本校では琵琶湖の水を守るため、地域の川の様子を調べる活動を、5年生が中心となって行っている。

近くを流れる湧水の豊富な山路川で水環境の調査活動を実施し、魚や水草だけでなく水生生物(指標生物)を調べ、上流から下流へと水の汚れがどうなっているかの調査を行った。

また、透明度調査やパケットテストを使用し

たCOD調査を行い、上流から下流へと徐々に汚れていく現状を見ながら、その原因を探ってみた。その結果、希少な魚スナ



ヤツメが観察できることもあり、下流でも水質が保たれていることがわかった。

さらに、フローティングスクールでは、山路川の水と北湖や南湖で採水した水との透明度を比較してみると、山路川の水がいかにきれいであるかが分かり、子どもたちも近くを流れる山路川を誇りに思うようになった。フローティングスクール終了後には、琵琶湖環境について各自が課題を設定し、「南小びわ湖博物館」と題して学習発表会を行い交流した。友だちの発表を聞きながら、琵琶湖の現状や課題から、今自分たちができることについて考えを深めることができたようである。

(3) 森林再生プロジェクト

5、6年生は、荒廃し竹やぶと化した山麓を市内の八日市南高等学校緑地デザイン科やまちづくり協議会、地元自治会等の地域団体と連携し、もとの雑木林にもどす「森林再生プロジェクト」に取り組んでいる。竹を伐採したり、下草を刈りとったりし、竹の増殖を防いでいる。伐採した竹は、八日市南高等学校緑地デザイン科の学生たちに教わりながら、竹垣として有効に活用している。



(3) 進んで環境を守る実践活動

「エコスクールプロジェクト」

教科等の学習で、見つけて、考えて、培った環境を守ろうとする子どもたちの思いを、日常的な実践活動に結びつけるのが「エコスクールプロジェクト」である。本校がこのプロジェクトに参加して12年目となる。

このプロジェクトは、エコスクール委員会が中心となり、自主的に環境を守る活動を展開する。「緑を育て、川を守り、地球にやさしくしよう」というキャッチフレーズのもと、持続可能な未来社会を創造するための基礎として多様な活動を展開してきた。

本校では、エコスクール委員会の児童が水・電気・ごみの3グループにわかれ、省エネ、省資源の活動を中心に、全校に呼びかけている。

水グループは、ポスター等を作成し、節水を呼びかけている。電気グループは休み時間の電

気チェックなどを行い、節電を呼び掛けた。また、ごみグループでは、ストックハウスでのごみの計量をし、ゴミの減量を全校児童に意識させる取り組みを行った。

さらに、代表児童は、「しがまなび 発見」に参加し、発表の機会を与えていただいた。発表や交流を通して、堂々と自分たちの取組や考えを発言することができたとともに、他校の実践に刺激を受けたようであった。

また、全校児童を対象とし、「エコウォークラリー」を開催した。全校児童のエコ意識の全体的な底上げにつながっていくことを目的に、エコスクール委員会児童が中心となって計画した。普段の生活の中で意識してほしい事を中心に問題を作成し、多くの児童が参加して実施することができた。

(4) 地域で支えるエコスクール支援委員会

このように充実した環境学習ができるのも、地域との連携が密だからこそである。特にエコスクール支援委員会は連携の中核となる地域団体である。地域の有識者や行政の方々、PTA代表等で組織し、支援やアドバイスをいただいている。今年も、猪子山活動等の指導など支援していただいた。山路川調査では、児童と一緒に川に入り、生物の集め方や名称など専門家としての知識を児童に伝授していただいた。

3. 今後の課題

エコスクール委員会を中心に様々な活動を行ってきているが、児童の意識をもっと高めていく必要がある。学校だけにとどまらず、各家庭で実践できることを一人ひとりが考えていくことが今後必要になってくる。しかし、地域の方の意識は高いため、ペットボトルキャップなどの回収では大きな成果を上げている。

今後も、全校児童が高いエコ意識を持って学校生活や家庭生活を送るように働きかけていくとともに、学校が環境教育やエコ活動の核となり、連携し協働した活動を継続し深めていけるようにしていきたい。

学校名	東近江市立能登川南小学校
住所	東近江市猪子町12
電話番号	0748-42-0148
E-mail	notminamisho@higashiomi.ed.jp